

スマイル賞

◎絆部門

第一次選考の際に、「南会津奨励作品」として選ばれた作品です。是非「二」読んでください。

つかれたら だけで体が 軽くなる	田島小	一年	江黒 佳嗣
あさごはん あわてるあささん つゆこぼす	田島小	一年	江黒 佳嗣
今朝もまた のんびり食べてる。我が娘	田島小	一年	小寺 在
おてつだい たくさんすると ままえがお	田島小	一年	重井 真奈
手伝いで 値段をつける。我が息子	田島小	二年	五十嵐 紀生
夏休み さがしに行こう カブト虫	田島小	二年	五十嵐 紀生
虫キライ すぐに見つけた	田島小	四年	稲瀬 真由
負けないぞ 姉にできたら ぼくだつて	田島小	四年	大竹 巧真
困ったなあ 何をやるにも ライバル視	田島小	四年	大竹 巧真
紙團察 声かされるまで 声を出す	田島小	四年	大竹 巧真
じいちゃん 作った野菜。お父さん	田島小	五年	宗像 充子
火をかこみ 家族みんなで 笑い合う	田島小	五年	宗像 充子
夏休み 思い出いっぱい 小麦肌	田島小	五年	湯田 美里
宿題は？ のん気な娘 あせる母	田島小	五年	湯田 美里
毎日の ブールに夢中で 日に焼ける	田島小	六年	湯田 美里
父と子で 直したバイクで ツーリング	田島小	六年	湯田 美里
やつとるよ だいたい先に 書いてよね	田島小	六年	湯田 美里
宿題は？ 小言が増える 夏休み	田島小	六年	湯田 美里
母代わり ごはんのしやく してみるよ	田島小	六年	湯田 美里
ありがとう うれしいけれど ヒヤヒヤだ	田島小	六年	湯田 美里
お母さん 教えてようたい いちよう切り	田島小	六年	湯田 美里
人夢の 皮むきから いちよう切り	田島小	六年	湯田 美里
紙團察 しゃやくにじ引き 友達と	田島小	六年	湯田 美里
いつからか 母と歩かず 友達と	田島小	六年	湯田 美里
すがいっばい うちんしゃこは つばめのぼてる	田島小	六年	湯田 美里
果立ちまで 安心安全 自慢のホテル	田島小	六年	湯田 美里
かわいね みずいもらさき あさがおのはな	田島小	六年	湯田 美里
観察は 祖母に出された 宿題が	田島小	六年	湯田 美里
家事中の 母つかまえて パレーやろう！	田島小	六年	湯田 美里
上手だね 時計みながら あと何本？	田島小	六年	湯田 美里
最後は ぜったいやらんと 十七字	田島小	六年	湯田 美里
最後まで 残る宿題 十七字	田島小	六年	湯田 美里
父の手を にぎってわたしは 買いのへ	田島小	六年	湯田 美里
娘との 絆深める 休みの日	田島小	六年	湯田 美里
園病中 母にささげる ホームラン	田島小	六年	湯田 美里
ひと振り 元気ななれた 特効薬	田島小	六年	湯田 美里
パパつた 伊南川のおゆ 日本一	田島小	六年	湯田 美里
羊の先 息子の笑顔 飛び跳る	田島小	六年	湯田 美里
姉ちゃん たくさんコロッケ 作ったよ	田島小	六年	湯田 美里
迎え火後 孫の手作り 祖父の笑み	田島小	六年	湯田 美里
つぎいつくる？ たのしかったよ またきてね	田島小	六年	湯田 美里
お盆中 順から眺まで 騒がしい	田島小	六年	湯田 美里
おまつりへ かぞくみんな いきました	田島小	六年	湯田 美里
去年より 短い浴衣で 手をつなぎ	田島小	六年	湯田 美里

ハムスター ごはんたべるよ かわいいな	南郷小	二年	渡部 美紗
そうじて かわいだけじゃ 網えないよ	南郷小	二年	渡部 美紗
令和でも 平和を願って いつまでも	南郷小	二年	渡部 美紗
戦没者に 思いを馳せて 照らすよ	南郷小	二年	渡部 美紗
さくらには あいどるに なるぞうす	南郷小	二年	渡部 美紗
フアンクラブ 第一号は お父さん	南郷小	二年	渡部 美紗
おあさん なぜおてつだい ことわるの	南郷小	二年	渡部 美紗
おすめさん はやくねたいの ゆるしてね	南郷小	二年	渡部 美紗
去年より 少し今年め 学習弁当	南郷小	二年	渡部 美紗
おいしいな 家で食べれる パーベキュー	南郷小	二年	渡部 美紗
あんなに 早く寝られ 開で早く(奥で早く)	南郷小	二年	渡部 美紗
「あんなに」 いっしょにおふる はりばい	南郷小	二年	渡部 美紗
知っているよ 一人でできる 甘えんぼ	南郷小	二年	渡部 美紗
こちよちよと せなかをあらう 小さな手	南郷小	二年	渡部 美紗
ワハハハと 何かを企む 悪い顔	南郷小	二年	渡部 美紗
手紙よく トントン切りたい 母のよに	南郷小	二年	渡部 美紗
切れない きゆうりと笑いが 食卓に	南郷小	二年	渡部 美紗
花ばたけ 今日こそとぞ オニヤンマ	南郷小	二年	渡部 美紗
トンボ追う 子に懐かしむ 夏休み	南郷小	二年	渡部 美紗
夏休み まだまだあるよ だいたいようぶ	南郷小	二年	渡部 美紗
玉ねぎと 母の笑顔が 目にしみる	南郷小	二年	渡部 美紗
ママにぎゅい したいと気持ち が やすくぐ	南郷小	二年	渡部 美紗
重くても 大きくなっても 抱っこする	南郷小	二年	渡部 美紗
清涼で 涼と見守る 子の背中	南郷小	二年	渡部 美紗
アメノボと 川でいっしょに 水泳だ	南郷小	二年	渡部 美紗
夏休み はたけでも 生か返る	南郷小	二年	渡部 美紗
炎天下 孫の愛で 生か返る	南郷小	二年	渡部 美紗
おふるばで かげざん九九を おぼえよう	南郷小	二年	渡部 美紗
最近はずらさきこえる ぶつろ九九	南郷小	二年	渡部 美紗
おきたそう おおきくなるまで まってね	南郷小	二年	渡部 美紗
長生きして 見届けたいな その想い	南郷小	二年	渡部 美紗
おてつだい 気づかぬように そのそらと	南郷小	二年	渡部 美紗
いつのまに 洗たくものを たたんだね	南郷小	二年	渡部 美紗
夏やさい もりもり食べて 元気で	南郷小	二年	渡部 美紗
食べ過ぎた 夏バテ防止と いるながら	南郷小	二年	渡部 美紗
ありがとう ごめんねいつも 思っている	南郷小	二年	渡部 美紗
おばあちゃんに ぶるの泳ぎを 見てほしい	南郷小	二年	渡部 美紗
母さんの 作る料理は おいしいね	南郷小	二年	渡部 美紗
かきく味には 母の愛	南郷小	二年	渡部 美紗
荷物持ち いつでもやります そのくらい	南郷小	二年	渡部 美紗
スマーтона その優しさに 母はキュン	南郷小	二年	渡部 美紗
寝てる母 弁当当めて サブライズ	南郷小	二年	渡部 美紗
出かけてるの？ 今日でも仕事 頑張るぞ	南郷小	二年	渡部 美紗
母の生気さにも 成長感じ 夜中まで	南郷小	二年	渡部 美紗
母の帰省 おわったおわた 血洗い	南郷小	二年	渡部 美紗
留守中も すつきり片付き 母帰	南郷小	二年	渡部 美紗
ありがとう おもっているけど 言葉出さ	南郷小	二年	渡部 美紗
大丈夫 元気な姿 それだけで	南郷小	二年	渡部 美紗
さあいくぞ にぎるメガホン 想い込め	南郷小	二年	渡部 美紗
打つてくれ にはるパトロン するばい	南郷小	二年	渡部 美紗
秋風と オニヤンマ見て ふと思	南郷小	二年	渡部 美紗
トンボ網 役目を果たした 胸らしさ	南郷小	二年	渡部 美紗
言葉より 見守る視線 身にしみる	南郷小	二年	渡部 美紗

◎復興部門

待ちわびた 再開したよ サッカー場

待ちわびた 再開したよ サッカー場	下郷中	二年	岩崎 真悠
あこがれの Jヴィレッジで プレーした	下郷中	二年	岩崎 真悠
福島が オリンピックで 盛り上がる	下郷中	二年	岩崎 真悠
笑顔咲く 明日への聖火 復興だ	下郷中	二年	岩崎 真悠
福島に 生まれ育って 幸せだ	下郷中	二年	岩崎 真悠
子どもらの 未来輝け 福島で	下郷中	二年	岩崎 真悠
「おかえり」と 久々に聞く 母の声	荒海中	二年	大竹 冬華
大人びて 帰った娘に ハグをさせ	荒海中	二年	大竹 冬華
果大金 親の応援 力出る	荒海中	二年	大竹 冬華
熱い力チー 最後の応援 涙出る	荒海中	二年	大竹 冬華
カチカチの 母の肩に 力こめ	荒海中	二年	大竹 冬華
おぼんむい その手の力に 成長感じ	荒海中	二年	大竹 冬華
益がきた 期間限定 大家族	荒海中	二年	大竹 冬華
ありがとう 伝えたいの つけいんか	荒海中	二年	大竹 冬華
年頃の 娘の「あるある」 想定内	荒海中	二年	大竹 冬華
すいでしょ 全部わたしが つくったの	荒海中	二年	大竹 冬華
疲れとぶ おいしいごはん 笑顔つき	荒海中	二年	大竹 冬華
おいしいね 家族で囲む タごはん	荒海中	二年	大竹 冬華
一日の 疲れがふきとぶ 子の笑顔	荒海中	二年	大竹 冬華
夏バテの 母の背中を マッサージ	荒海中	二年	大竹 冬華
その手から 伝わるやさしさ 身にしみる	荒海中	二年	大竹 冬華
なやんでも 常にたやすな 笑顔の炎	荒海中	二年	大竹 冬華
なやみごと 母のアドバイスは 心の節活	荒海中	二年	大竹 冬華
リビングが もっとないから リビングへ	荒海中	二年	大竹 冬華
あとひとつ 最後の試合くやし泣き	荒海中	二年	大竹 冬華
太陽に 背中おされて 走り出す	荒海中	二年	大竹 冬華
真似できぬ だから声援 走る背に	荒海中	二年	大竹 冬華
夏休み 今日から私が お見送り	荒海中	二年	大竹 冬華
行ってきます だに送られ 仕事場へ	荒海中	二年	大竹 冬華
高い所 届かないなら ぼくがやる	荒海中	二年	大竹 冬華
ついに間に 大きくなった 子を見上げ	荒海中	二年	大竹 冬華
父帰宅 すぐに返される あと一球	荒海中	二年	大竹 冬華
仕事あと すぐに返される あと一球	荒海中	二年	大竹 冬華
外泊の じいちゃんの前 そばにいら	荒海中	二年	大竹 冬華
孫がいて 安心して歩ける 暮まいる	荒海中	二年	大竹 冬華

